

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和5年度第4回朝霞第五中学校学校運営協議会	
開催日時	令和5年2月5日（月） 午前10時00分から午前11時00分まで	
開催場所	朝霞市立朝霞第五中学校 学校図書館	
出席者及び欠席者の職・氏名	委員9人（鈴木会長、要害副会長、片村委員、児玉委員、渋谷委員、森泉委員、金子委員、小島委員、鈴木校長） 事務局1人（相澤教頭） 欠席 大森委員	
議題	1, 令和5年度学校評価結果について 2, 教育上の諸課題について 3, 情報交換 4, 質疑応答	
会議資料	別紙参照	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法	による確認
傍聴者の数	傍聴者0人	
その他の必要事項	特になし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1, 令和5年度学校評価結果について

・（鈴木校長）令和5年度学校評価について、資料に基づき説明

・（要害副委員長）

道徳の授業を見た際、同じ内容でも先生方一人ひとりが異なるアプローチをしており、生徒一人ひとりの考えを丁寧に扱っていたことが印象的だった。子供たちは小グループ等で自分の意見をよく述べており、道徳の大切さが感じられる授業だった。

ふれあい祭りでは五中生もたくさん参加があり、ブンブンゴマのブースでは長蛇の列ができるほどの人気だった。小さい子供たちや小学生に、五中生が大変丁寧に教えている様子が見られるなど、生徒と一般の方のふれあいができた。今後もふれあい祭りを、町内会からも関りを持てる良い機会としたい。

・（片村委員）

学校評価は多くの分野で高評価が多く良いと思う。一方で体力面の課題については今後の課題もあると思うがどうか。

・（校長）

体育で持久走の授業になると見学者が多くなるなど、精神的な部分も多いと思われる。休み時間の外遊び励行やボール投げ教室の取り組み等行って改善を図っている。

・（児玉委員）

道徳の授業参観ではどのクラスも温かい雰囲気での話し合いができていた。学校評価を見ると「話を聞き発表する」の項目が令和4年度と比べ大幅に上がっている。これは、道徳の研究の成果が他教科にも波及しているのだと思う。

また、体力面の課題については、五中だけでなく、どの学校でもコロナ渦で一番影響を受けた部分である。日常的に体を動かす機会を増やすなどの対策が求められる。

地域との連携推進については、避難訓練や避難所の開設をどうするかなど、地域と連携し取り組む必要がある。例えば仮設トイレの設置などは小学生では難しいが、中学生はできるので、そういった取り組みもよいのではないかと。

・（渋谷委員）

学校評価をみると、「あいさつ」の項目がやや低い。学校を訪れた時に、挨拶はよくできていると思うので、自分たち自身で認めていけるとさらに良くなるのではないかと。

地域連携について、盛り上げていきたいが、土日等休日での行事が多くなるので、働き方改革の部分で先生方の負担が重くなる等課題があると感じる。

・（校長）吹奏楽部などは地域の行事に積極的に参加している。部活動としてのさんかなら、休日でも対応できる。

・（森泉委員）

埼玉県学力・学習状況調査等の学力検査の結果が素晴らしい。学校の取り組みの成果がでているのではないかと。一方、学力の二極化については五中だけではなく課題があるのではないかと。不登校生徒を含めてどう取り組んでいくのか考えていく必要がある。

道徳の授業では生徒がのびのびと自分の意見を述べるなど、良い顔をして授業に取り組んでいた。道徳で培った伝え合う力が、他教科にも波及しているのではないかと。

・（校長）

五中では1年生の2学期から不登校生徒が増加する警告がある。学力の遅れが不登校につながっていると考えられるため、その支援が必要と考えている。

・（小島委員）

三小児童はほとんどが五中に進学するため、学校評価は写し鏡と考えている。結果を見ると、中三生の英語の伸びが素晴らしい。平均正答率も全体的に三小の結果と比べて

も素晴らしい。

不登校問題では、学校の存在意義にまで遡って、社会全体で考えていく必要がある。すべての子供たちが学び続けることができる環境づくりは必須である。

・(鈴木委員長)

不登校問題について、中学校へ入学してから、規律面などが大きく変わり、適応できない生徒がいるように感じる。中学校へ入ってから、悩みなどを共有できる機関・組織・人などを拡充する必要があるのではないか。

(校長)

さわやか相談室や子供相談室の活用や、フリースクールなども教育課程に沿ったものなら出席にするなどの対応をしている

2, 教育上の諸課題について

・(鈴木校長) 教育上の諸課題について、資料に基づき説明

3, 情報交換

・特になし

4, 質疑応答

・特になし